



京都大学フィールド科学教育研究センター 10周年記念プレシンポジウム

流域研究と もり さと うみ 森里海連環学

2012.12.02 (日曜日) 13:00-17:00

京都大学百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

入場無料
予約不要

同時開催

パネル展示



矢作川



天塩川



太田川



仁淀川



由良川

自然と人間のかかわりはどうあるべきか。
その問題に取り組んできた流域研究と森里海連環学。
両者の連携と住民の参加を通して、今後の進む方向を探る。

交通アクセス

■京都駅 (JR、近鉄) から市バス「京都駅前」より

206 系統「東山通 北大路バスターミナル」行
約 40 分「京大正門前」下車

17 系統「河原町通 錦林車庫」行
約 40 分「百万遍」下車

■阪急河原町駅から市バス「四条河原町」より

201 系統「祇園 百万遍」行
約 30 分「京大正門前」下車

31 系統「熊野・岩倉」行
約 30 分「京大正門前」下車

■京阪出町柳駅より徒歩

東へ約 15 分

* 駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

主催：京都大学フィールド科学教育研究センター 共催：京都大学学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニット
後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会 助成：公益財団法人 日本財団
協賛：生物地球化学研究会、NPO法人 エコロジー・カフェ、NPO法人 シニア自然大学校、フィールドソサイエティー

お問い合わせ：京都大学フィールド科学教育研究センター企画情報室
TEL : 075-753-6420 FAX : 075-753-6451 <http://fserc.kyoto-u.ac.jp>



森里海

流域研究と森里海連環学



森・里・海のつながりを解明し、人々の自然とのつきあい方を考える統合的な学問領域として、2003年に発足した京都大学フィールド科学教育研究センターが「森里海連環学」を提唱して早くも10年になろうとしています。この間、私たちは大学教育において「森里海連環学」の講義や実習を数多く実施すると共に、2冊の書籍『森里海連環学』と『森と海をむすぶ川』を世に問うてきました。その間も全国各地の河川では「流域研究」が進められていますが、これらの流域研究と森里海連環学との間にどんな違いがあるのでしょうか。

本集会では、まず、流域研究の第一線で活躍されている3名の研究者にその研究内容を紹介していただき、その後、フィールド研の「木文化プロジェクト」から森里海連環学による研究事例を紹介します。パネルディスカッションでは、自然科学、人文社会学の両面から、今後進むべき研究の方向について議論します。流域環境に対する住民意識は重要な要素です。本集会では、研究者だけではなく、多くの一般市民、住民の方にも議論に参加いただきたいと願っています。

開催日時：2012年12月2日（日）13:00～17:00

開催場所：京都大学百周年時計台記念館2階 国際交流ホール（京都市左京区吉田本町）

定員：先着200名

対象：一般市民（高校生以上） ※入場無料、申込不要、パネル展示を同時開催

● プログラム ＊プログラムは変更する場合がございます

森里海

12:30

開場

総合司会：向井 宏（京都大学学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニット特任教授）

13:00

開会挨拶：柴田 昌三（京都大学フィールド科学教育研究センター センター長）

第1部（講演）[流域研究の今]

13:10

矢作川：間野 隆裕（豊田市矢作川研究所総括研究員）

13:40

天塩川：上田 宏（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授）

14:10

太田川：山本 民次（広島大学生物圏科学研究科教授）

14:40

仁淀川：長谷川 尚史（京都大学フィールド科学教育研究センター准教授）

15:00

由良川：吉岡 崇仁（京都大学フィールド科学教育研究センター教授）

15:20

質疑応答

15:30

休憩およびパネル展示

16:00

第2部（パネルディスカッション）[流域研究から見た森里海連環学]

司会：吉岡 崇仁

パネラー：小林 光（一般社団法人水生生物保全協会代表理事・元環境省自然環境局長）

田中 耕司（京都大学学術研究支援室 室長）、

間野 隆裕、上田 宏、山本 民次

17:00

閉会挨拶：山下 洋（京都大学フィールド科学教育研究センター 副センター長）